

東湯野ふるさと保全組合 「KA-KA-SHI組」



KA-KA-SHI GUMI

飯坂町東湯野の中堅若手生産者が
集まり、農業を通じて地域の活性化の
仕掛けづくりに取り組んでいます。

東湯野は、むかしから「くだもの」や「^{かき}花卉」の栽培が盛んな地域。
しかし近年、農家の高齢化や担い手不足、なにも作られていない畑の
増加など、さまざまな問題を抱えています。

「KA-KA-SHI組」は、農業の担い手不足の解消、耕作放棄地の再生、新規
就農者の育成などを目指し結成しました。

名前の由来は「果(KA)樹と花(KA)卉で地域を支(SHI)える」。

「かかし」は元来、農作物を荒らすものから
田畑を守る大切な役割を担ってきました。
私たちが「かかし」のように、東湯野の農業や
田畑を守りながら地域活性化を目指して
います。



「KA-KA-SHI組」は、これからもくだものや花卉の栽培を通じて東湯野
の魅力を発信しながら、先祖から受け継いだ宝物を守り続けてまいります。

HIGASHIYUNO

東湯野

東湯野は くだもの おいしい

太古の昔からの恵みが受け継がれる「東湯野」

福島市の北東に位置する飯坂町東湯野は、
春から初夏にかけて、さくらんぼやもも、ぶどう、りんごなど、
淡いピンクや濃いピンク、真っ白な花が咲き誇る「桃源郷」。
そしてその花々は実を結び、自慢の「くだもの」となるのです。

東湯野の北部には、いまからおよそ4,000年前の
縄文時代後期の集落跡である「上岡遺跡」があり、
石器や土器、動物の骨や食物の化石も見つかっています。
人々が暮らした跡があるということは、それだけ食べ物が豊富だったにちがひありません。
先祖代々受け継がれ育まれたくだもの味は、
縄文の頃より肥沃^{ひよく}だった土地のおかげなのです。



東湯野の営みの原点「上岡遺跡」

昭和27(1952)年に発掘された「上岡遺跡」。
縄文時代後期(約4,000~3,000年前)、晩期(3,000~2,300年前)の
2時期にわたる集落跡で、竪穴式住居や土器、土偶などが見つかっています。
なかでも「しゃがむ土偶」は、平成23(2011)年に国の重要文化財に指定され、
貴重な資料とされています。

重要文化財 「しゃがむ土偶」

そのポーズは、^{ざさん}座産(お産)や
^{さいし}祭祀(まつり)の祈りとも
考えられていますが、謎のままです。



東湯野から吾妻山の種まきうさを望む